

NEWSLETTER

中央労福協ニュース No.54

労働者福祉中央協議会（中央労福協）
 発行人 高橋 均
 〒101-0052
 東京都千代田区神田小川町3-8 中北ビル5F
 03-3259-1287 URL <http://www.rofuku.net>

2011年 年頭あいさつ



労働者福祉中央協議会
 会長 笠森 清

新年明けましておめで
 とうございます。

今年こそ、希望のも
 てる社会への扉を開く
 年にしたいと思います。
 それは、何よりもまず

生きること、働くことへの希望であり、次世代
 を生み育てる希望です。

時代は市場万能主義に変わる新しいパラダイムへの転換を求めていますが、産みの苦しみの中で閉塞感も漂っています。「貧困の連鎖」無縁社会、3万人を超える自殺者・・・、こうした現実に真正面から向き合い、人と人との絆の再生・地域の活性化、本当に困った人たちのためになる運動、社会改革につなげていけるか、私たち労働者福祉運動の真価が問われています。

昨年は改正貸金業法の完全施行を実現し、司法修習生の給費制問題でも貸与制導入を1年延期するという成果を上げました。何よりもこの運動を通じて、高い志と正義感を持った次代の法曹の担い手が育っていったことは、大きな社会的財産と言えます。これからも幅広いネットワークとの協働で、"必ず答えを出す運動"に取り組んでいきます。

また、生活困窮者等に対する寄り添い型の支援として政府の「パーソナル・サポート・サービス」モデル事業が始まり、沖縄をはじめいくつかの地域で労福協もその一翼を担っています。ライフサポート活動とも目ざす方向は同じであり、しっかりと成果をあげながら制度化につなげていきたいと思います。

2012年には国際協同組合年を迎えます。国連が協同組合の役割を重視し、世界に協同組合の育成・普及を呼びかけているのです。私たちにとっても、またないチャンス。共助をベースに「新しい公共」としての役割をどのように担えるのか、大いに議論し、協同組合の社会的存在感や価値を高めていこうではありませんか。そして、労働組合と協同組合が、車の両輪としてともに運動するという関係づくりも必要です。今年は、その足固めをする年でもあります。

「連帯・協同でつくる安心・共生の福祉社会」に向かって、ともに前進しましょう！



日本労働組合総連合会
 会長 古賀 伸明

新年明けましておめ
 でとうございます。

今年多くの課題を抱える中で、スタートしまし
 た。喫緊の課題は何と言っても雇用問題です。

2008年リーマンショック以降、世界同時不況がおこりました。日本に於いても、グローバリゼイションの中で、特に輸出に頼っていた経済が落ち込み、雇用状況が非常に厳しいものになっています。極めて厳しい雇用状況の中で、雇用を維持・確保することと同時に、どのようにして雇用を創出していくかが大きな課題となっています。

わが国は、すでに小子・超高齢社会に突入しており、労働人口は既に減少局面に入っています。働く者が能力を高め、質の高い仕事を行い、その上で、雇用の創出をすすめていく必要があると思います。私たちは、労働の尊厳、労働の価値を軽視してきた、これまでの経済政策や社会政策を転換させるべき時代の潮流に変化させなければなりません。「ディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）」はこのような背景を踏まえた世界からのメッセージです。

連合は、これまで掲げてきた「労働を中心とした福祉型社会」を再定義・深化させ、働くことを通じて支え合う希望と安心の社会、すなわち「働くことを軸とする安心社会」の実現に向けて、取り組みを進めてまいります。これは、働くことに最も重要な価値を置き、誰もが公正な労働条件のもとで多様な働き方を通じて社会に参加でき、社会的・経済的に自立することを軸とし、それを支え合い、自己実現に挑戦でき、そしてセーフティーネットが組み込まれている活力のあふれる参加型の社会です。

今後も、力強い内需に支えられた層の厚い中間層を復活させるためにナショナルセンターとしての役割を發揮するために、全力を挙げる決意を申し上げて、新年の挨拶とさせていただきます。

年頭挨拶

全国労働金庫協会
理事長 岡田 康彦

新年あけましておめでとうございます。
旧年中は労働金庫に対しまして、ひとかたならぬご高配をたまわりましたことに、心よりお礼申しあげます。
まず、2012年4月を目指して取組んできました労働金庫の全国合併につきましては、大変なご支援・ご協力を頂きましたことに感謝申しあげます。
労金業態といたしましては、全国合併に向けて鋭意議論をすすめてまいりましたが、この度、この合併の時期を当面延期し、継続協議とすることとなりました。

「日本労金創設は業態の目指すべき姿であり、実現すべき経営課題である。」という基本的考え方と「全国合併実現への会員の期待も大きい。」という認識に基づき引き続き全国合併の実現に向けて体制等の再構築を行なうとともに、当面合併協議の成果を最大限生かした顧客利便性向上の実現に向けて検討を進めてまいります。

また、現在開発中の次世代システムにつきましては、合併時期の延期に伴い、シングルバンク方式（1金庫）からマルチバンク方式（13金庫と連合会）に構築方針を変更し、2014年1月稼動に向けて次世代システム移行に万全な体制で取組んでまいります。なお、全国の労働金庫では引き続き生活応援運動を展開し、勤労者生活支援に取組んでまいりますので、本年も引き続き皆様方のご支援・ご協力のほど宜しくお願い申しあげます。

年頭にあたって 全国住宅生活協同組合連合会
理事長 早川 常義

新年あめでとうございます。
一昨年のリーマン・ショックによる世界同時不況から回復の兆しを見せた日本経済ですが、円高進行など先行き不透明感が強いものとなっています。また、デフレ経済のもとで、格差拡大や低年収層の増大、失業率の高止まり、雇用不安など厳しさが一段と増しています。不動産、住宅業界にあっても大変厳しい状況におかれています。

私ども全住連はこうした状況下で、勤労者福祉事業の原点にたち住宅事業を通じて地域社会福祉作りをめざす所存です。

各住宅生協は組合員のニーズに応える住宅提供や快適な住環境作りに努め、業績アップをめざして参ります。当該する地方労福協や地方連合会の皆様の一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様方のご健勝とご多幸を心よりご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。



最良の品質を組合員の皆さまへ
全労済代表理事 理事長 石川 太茂津

新年明けましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

全労済は、生活協同組合として「最良の品質を組合員へ」提供することを経営方針として定めた「2009年度～2013年度中期経営政策（5年計画）」にもとづき、組合員から信頼・支持される事業体基盤への革新」に向けて、諸活動を展開して

います。特に、すべての業務の革新による業務品質のさらなる向上へ向けて、組合員の全労済をめざした取り組みの強化をはかっています。さらに、こくみん共済などの制度改定を実現させるとともに、組合員のニーズにきめ細かに応えたより魅力ある共済商品の開発・改定をすすめ、組合員へ最良の品質を提供し続けることにより、社会的な責任と役割を果たす所存です。

本年が皆さまにとって明るく良い年となりますよう心からご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



新しい年を迎えて 日本生活協同組合連合会
会長 山下 俊史

新年あめでとうございます。

労福協の皆様、ご関係者の皆様が日夜努力を積み重ねてこられましたことに、敬意を表したいと存じます。



世界は地球温暖化、貧困・飢餓、平和の問題に直面し、国内でも先行きが見えない経済情勢と人口減少・高齢社会を背景にくらしの不安が高まる中、地域社会における人と人との絆を様々な形で強めていくことが求められています。一昨年、国連総会が2012年を「国際協同組合年」と決定したことは、諸問題への対処において協同組合や協同組織に大きな期待が表明されたものと受けとめています。

本年、日本生協連は創立60周年を迎えます。国民生活が依然困窮していた1951年、賀川豊彦を始め全国の生協の先達は「平和と、より良き生活こそ生活協同組合の理想」と宣言して日本生協連を創立し、各地で様々な問題や矛盾に挑戦しつづけてきました。大きな転換期を迎える今、全国の生協と日本生協連は10年後の生協のありたい姿を描く「生協の2020年ビジョン」づくりを進めています。生協は労福協の皆様とともに、地域における信頼・絆の核となり、くらしを支え続ける確かな存在でありたいと考えます。

一層のご指導ご鞭撻をお願い申し上げるとともに、本年が皆様にとって実り多き一年となりますよう心からお祈り申し上げます。

新年のご挨拶

全国労働者福祉会館協議会
会長 高橋 康夫

新年明けましておめでとうございます。
旧年中は全国労働者福祉会館協議会に対し、格別のご支援とご協力を頂き、心より厚くお礼申し上げます。



国内景気が後退を続けている状況下で、飲食・サービス産業全体を取り巻く環境は、厳しさが増大しております。

また、平成20年12月1日から施行されました、新公益法人制度改革への移行手続きについて2年が経過しており、早急に各会館において公益社団・財団あるいは一般社団・財団を選択しなければならない状況にあります。

現状において、各会館とも厳しい事業運営を強いられていますが、喫緊の課題として新公益法人移行対応について、各会館の進捗状況には濃淡がありますが、解散という最悪の事態だけは避けなければなりませんので、会館協として、可能な限り情報収集に努め、会員相互の理解を深めて行きたいと考えております。

中央労福協を始め各地域の労福協や多くの労働者の方々から暖かいご支援とご協力を頂き、この難局を乗り越え、健全な会館運営を目指して行きたいと思います。

全国の会館は、労働者総合福祉の砦として、今年も役職員一丸となって、皆様のご満足いただける事業運営に努めて行きますので、旧年にも増して暖かいご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

2011年が皆様にとって、輝かしい年になることをお祈りし、新年のご挨拶と致します。

全国労働者信用基金協会連合会 会長 金子 憲彦

新年あけましておめでとうございます。
旧年中は、全国労信連に対し格別のご高配を賜りましたことに心よりお礼申し上げます。



昨年は、改正貸金業法が完全施行され利用者の資金繰り懸念が高まるなか、過払金返還請求で経営を圧迫された武富士が経営破綻するなど、私ども信用保証事業を巡る経営環境は、大変厳しい年となりました。

こうした状況下、全国労信連は労働金庫と連携して就職安定資金融資や労働者生活支援特別融資の保証にも取り組む等、働く人への融資が円滑に進むよう尽力して参りました。

本年も労働者を取り巻く環境は、引き続き厳しいと予測されていますが、福祉事業団体の一員として、働く人とその家族が安心して生活できる社会の実現に向け、その役割を果たすべく邁進する所存であります。

本年も、よろしくお願い申し上げます。

全国勤労者旅行会連合会 会長 齊藤 正己

新年明けましておめでとうございます。

2009年7月1日の通常総会において、全国勤労者旅行協会から連合会に生まれ変わり、全国1旅行会を東部・中部・南部の3ブロック体制として、連携・情報の共有・共同商品造成など、ブロックの活動強化を柱に新たなスタートを切り、2年目を迎えました。



2009年度は、サブプライムローンから始まり、新型インフルエンザと、旅行業界に逆風が吹き荒れる中での船出となり、各旅行会は厳しい運営を迫られました。

2年目の2010年度も、経済不況による内需の冷え込みが続き、業務・団体・個人旅行ともに失速し、雇用不安も追い討ちをかける中、旅行への潜在意識はあれども、実際の受注には結びつかず、期待通りの成果を上げることは困難な状況が続いております。

この様に旅行業界を取り巻く環境は以前厳しい状況ではありますが、労働福祉事業団体を応援してくださる各地の連合・労福協・労働組合の皆様のおかげで、緩やかではありますが明かりが見えてきました。

今年もブロックの活動強化を図り、また各地区での事業団体との連携・情報の共有なども図りながら、各旅行会元気一杯頑張ってまいります。

我々勤労者旅行会は大手旅行会社にはない“きめの細かいサービス”をモットーに、労働者福祉事業団体の一員として、旅行業のプロとして、「よりよい条件でよりよい旅行を…」コーディネイトし、今後も各地区の会員の皆様に提供し、事業・運動を推進してまいります。

本年もより一層のご支援・ご利用を賜りますよう心よりお願い申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のごあいさつ 日本再共済生活協同組合連合会

理事長 角田 修作

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、新しい政権が誕生して迎えた最初の年となりました。しかし、世界経済低迷の長期化により、我が国も急激な円高の進行やデフレ傾向を受けて景気の不透明な状態が続き、経済・労働環境の厳しさは、一層増しています。



さて、日本再共済連では昨年は「健全性の追求」「組織力の向上」「事業の拡大」の三つの大きな柱を中心に、会員団体および推進団体からますます信頼されるよう取り組みを強化してきました。また、2007年度に計画した「経営政策構想」「事業推進戦略中期構想」の最終年度に入っていますが、両構想の完成にむけた各種活動の取り組みをすすめるとともに2011年度以降の中期経営計画の検討を開始しました。

本年も、組合員の生活の安定と向上を使命としている共済協同組合団体のための「再共済センター」として、経営安定の役割と責任を十分に果たしていく所存です。

本年も皆さまからのご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げ、年頭の挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶

日本労働者協同組合
(ワーカーズコープ)連合会
理事長 永戸 祐三

新年明けましておめでとうございます。

右肩上がり経済の物質的豊かさと引き換えに、「人の絆」や「地域」はやせ細り、「無縁社会」が誰にとっても現実のものとなっています。
私たちも働く者の「協同組合」として、地域での仕事おこし、失業者の職業訓練などに取組む一方、労働者、市民主体でのコミュニティ再生の取組みや、ネットワークづくりにも力を入れてあり、皆様と共に、地域の課題解決にも力を入れてまいりました。

また、「協同労働の協同組合法」の法制化運動も、笠森会長をはじめ、労福協や事業団体の方々の御支援・ご協力を受け、今年こそは実現を目指してまいります。

法制化議連会長である坂口力議員も、「無縁・孤立社会から共助・支えあい社会に転換させなければ、この国の福祉はダメになる。福祉の根源は労働であり、だからこそ今の時代にあった新しい働き方が必要である」と言われています。

「市民生活」と地域に必要不可欠な「仕事」を結ぶ新しい働き方を定める法律として、制定に向け尽力する次第です。引き続き、皆様のご指導・ご協力を宜しくお願い申し上げます。

福祉格差是正元年に

全福センター
会長 野寺 康幸

兎の年はじめ、あらたまを寿ぎつつ謹んでご挨拶を申し上げます。



連合、労福協の皆様に、かつて愛情と期待を込めて育てていただいた全国の中小企業労働者福祉サービスセンター(SC)の多くが、現在、不況と事業仕分けの嵐の中、補助金削減、会員減少に直面し、危機的な状況におかれています。全福センター(ZC)では、

昨年来、SCを含めた今後の在り方について検討を進めてまいりました。中小・零細企業の労働者に対し、安心できる安価な福利厚生制度を提供するSC事業は、大企業と中小企業の格差が拡大する中、今後とも不可欠です。ZCとしては、労福協とともに、国に対し、関係法制整備を働きかけ、また、経営の改善と自立が必要なSCの基盤強化のため、自主財源確保、SC同志の広域的連絡調整・連携促進等の支援を一層強化し、脱落するSCが出ないよう全力を尽くしていく覚悟でございますので、今後とも皆様のご支援、ご協力をよろしくお願ひいたします。

新年のごあいさつ

日本医療福祉生活協同組合連合会
会長理事 高橋 泰行

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、長引く経済不況を背景に格差と貧困が拡大し住民の暮らしや命が脅かされる状況が一層深刻になりました。企業倒産や自殺者数も減少には至らず、各地でとりくまれているまちかど相談会には、職や住まいを失った人や困難を抱えた人が多く訪れました。



また、所在不明高齢者が大きな社会問題となり、地域社会における人々の絆の重要性が改めて問われました。

このような状況下、昨年7月に全国115の医療福祉生協と日本生協連が「日本医療福祉生活協同組合連合会(略称:医療福祉生協連)」を設立しました。医療福祉生協連は日本の医療・福祉分野での生協の社会的立場を一層高め、新しい価値を社会に示すことをめざします。

医療福祉生協の事業活動に対する皆さまの一層のご指導・ご鞭撻をお願い申し上げるとともに、本年が皆さまに一人ひとりにとって実り多き一年となりますよう心からお祈り申し上げます。

年頭ご挨拶

株式会社ワークネット
代表取締役社長 南雲 弘行

新年明けましておめでとうございます。

中央労福協は、一昨年8月に結成60周年を迎えたが、当社も昨年11月に設立10周年を迎えることができました。この間、中央労福協に結集されている労金・労済をはじめとする労働福祉団体、連合をはじめ多くの労働団体にご協力を賜り、心より感謝申し上げます。



急速に進む高齢化時代を迎え、年金受給との関連で、これからは少なくとも65歳まで働かざるを得ませんが、そのことを可能とする最も重要な雇用状況は、高止まりの失業率、過去最悪を更新しそうな新卒就職内定率など、どれをとっても厳しさを増しています。

この様な時期だからこそ、当社の使命である『一人でも多くの人が再就職できるよう仕事を紹介し、また、派遣スタッフには、安心して働ける職場と良質な労働条件を提供する。』を再認識し、その実現に努力する所存です。

今年も当社に対するご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。